

「なりたい肌」は、スキンケア製品の技術で変わる

1. 与える技術(Giving) : 化粧水で、しぼんだ肌に水分を与える
2. ラッピング技術(Lapping)と塗る技術(Applying) : 乳液・クリームで、症状を塗って覆う
3. 消す技術(Clearing)と塗る技術(Applying) : 美容液の有効成分で、症状を塗って覆って消す
4. 隠す技術(Concealing)と塗る技術(Applying) : 化粧下地で、症状を塗って覆って隠す
5. 皮膚バリアを修復・強化する技術(Technology that repairs and strengthens the skin barrier) : リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品(例えば、海森水)で、リノール酸を細胞間脂質に浸透させセラミドと結合することでアシルセラミドを形成し、皮膚バリア機能を改善する

このようなスキンケア製品のスキンケア技術を駆使して、なりたい肌の実現を目指します。では、1から4の技術を備えた製品は何に役立つのでしょうか？外出前のデイトタイムスキンケアとして有効です。実際、市販されているほとんどのスキンケア製品のスキンケア技術は、1から4に該当します。

長期的になりたい肌を実現するには、5の皮膚バリアを修復・強化する技術が必要です。この技術を備えたスキンケア製品は、リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品(例えば、海森水)しかないのではないかと思います。あるいは、海森水以外の製品を見つけるのは非常に難しいでしょう。

では、5の技術を備えた製品は何に役立つのでしょうか？外出前のデイトタイムスキンケアには不向きですが、ナイトケアスキンケアには非常に有効です。特に、睡眠中のホメオスタシスとターンオーバーの連携による皮膚バリア再生プロセスと連動していることが重要です。

デイトタイムスキンケアあるいはナイトケアスキンケアでは、使用するスキンケア技術を備えた製品は全く違うのです。この皮膚科学的事実をほとんどの人が知りません。この事実を理解せずに、デイトタイムスキンケアで使う1から4の技術を備えた製品をナイトケアスキンケアで使用しています。これでは、何時まで経っても、「なりたい肌」にはなれません。